

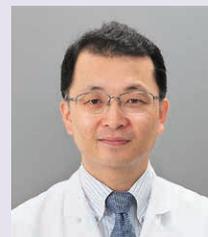
外科

心臓血管外科

病棟 東病棟 9F

外来 外来診療棟A 2F 連絡先 022-717-7743(外来)、022-717-9631(病棟)

ホームページ <http://www.cts.med.tohoku.ac.jp/>
<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/3316.html>(循環器センター HP)
<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/3320.html>(補助人工心臓センター HP)



科長
齋木 佳克 教授

主な対象疾患

- 胸部大動脈瘤 ●虚血性心疾患 ●心臓弁膜症 ●重症心不全 ●先天性心疾患 ●成人先天性心疾患 ●不整脈

診療内容

標準的な心臓血管外科手術はもちろんのこと、高度先進医療技術も積極的に取り入れた手術治療を行っており、2019年には291例(NCD登録症例として)の心臓大血管手術を施行しました。

先天性心疾患では宮城県立子ども病院との連携のもと、非チアノーゼ性心疾患および成人先天性心疾患患者さんの再手術などを主な対象としており、成人先天性心疾患専門外来での診療も行っています。

虚血性心疾患では、循環器内科とハートチームとして連携しながら、カテーテル治療が困難な症例に対し積極的に冠動脈バイパス手術を行っています。従来の心停止下冠動脈バイパス手術に加え、低侵襲治療としての人工心肺を用いない心拍動下冠動脈バイパス術を実施しています。

弁膜症治療においても、経カテーテル的大動脈植込み術(TAVI)プログラムを立ち上げ、高齢、大動脈高度石灰化などこれまで手術が困難であったハイリスクな大動脈弁狭窄症の患者さんに対しても根治治療ができるようになりました。2020年5月までに160症例に対してTAVIを実施しました。また、右小開胸アプローチによる低侵襲僧帽弁手術(MICS-MVP)も導入され、2020年5月までに19症例に施行され、早期の社会復帰が可能となっています。

また、2011年4月から体内植込型の補助人工心臓の植込み手術実施施設として認定され、内科的治療では限界となった重症心不全患者さんに対して、2019年5月までに64例の植込み手術を実施し、補助人工心臓装着下での在宅治療の実現に努めています。さらに、東北地方唯一の心臓移植認定施設として、2005年3月から現在まで19例の脳死心臓移植を実施しています。

診療体制

当院では、循環器センターとして循環器内科と心臓血管外科が密に連携して診療を行っています。また、周術期口腔支援センターによる術前口腔内スクリーニングの徹底、リハビリテーション部門による積極的な周術期リハビリテーションの実施、さらに補助人工心臓治療においては補助人工心臓(VAD)センターを立ち上げ、多くのコメディカルが関わる多職種協働による診療体制を実現しています。加えて、補助人工心臓治療や心臓移植治療の適応となる可能性のある患者さんがいる場合には、往診によるコンサルテーションも実施しています。

得意分野

胸部大動脈瘤に対する開胸手術の症例数が年間80～100例と全国的に見ても多いことが特徴のひとつで、再手術症例や緊急手術症例も含め、その治療成績も良好と考えています。また、大動脈瘤に対する低侵襲治療であるステントグラフト治療でも、2013年4月からはハイブリッド手術室が稼働し、より一層その安全性や確実性が向上しています。

さらに当施設では日本心臓血管外科データベース(NCD/JCVSD)に2001年の設立当初から参加し、我が国における疾患重症度に応じた手術成績の算定およびリスク予測に積極的に貢献しております。



ハイブリッド手術室でのステントグラフト内挿術



MICS-MVP(低侵襲僧帽弁手術)の術後3週での創部
(ご本人からの承諾を得て掲載)



ご紹介いただく際の留意事項

■歯周病と心臓大血管疾患との関連が指摘されており、特に心内膜炎や人工弁・人工血管感染の原因となることがあります。ご紹介の前に、一度患者さんの口腔内をチェックしていただき、歯科的スクリーニングをしていただきますようお願いいたします。

また、当院では腹部大動脈瘤以下の末梢血管外科治療は、総合外科の血管グループが担当しておりますので、担当診療科に迷われる場合などは予めご連絡頂ければ幸いです。